

道 徳 委 員 会

1 研究テーマ

体験を生かした、心に響く道徳教育はどうあったらよいか

2 研究課題

昨年度の成果と課題をもとに研究を振り返り、以下のような道徳授業の問題点を洗い出し、改善方法を考えて高山小学校で実践していただいた。

道徳授業の問題点	改善の方法
・子どもたちの持っている価値（自然性）や本音が語られず、こうすべきだという価値を優先して発表することが多い。 ・日常の自分と重ね合わせることや自分の体験と照らし合わせて考えにくい。 ・明るい展望の見える心に響く授業の展開がされない。	体験を通して、心に響く道徳の授業のあり方を考える。（体験の振り返り→覚醒・共感→葛藤→実践意欲） 体験活動と道徳の時間の関連を図るために、体験と道徳の時間を合わせたカリキュラムを考える。 自分にとって切実感を持った資料や課題の提示、またそれを提示する方法や手だてを工夫する。 「自分は主人公とは違う、だめな自分」から「主人公と同じものを持っている自分」「自分の本来望むことをする気持ちよさを味わえた」が自己評価できる授業改善

3 指導の実際

研究授業実施

平成17年10月12日（水） 高山村立高山小学校 3年2組 櫻田幸子教諭
教師や地域（保護者や村民）の願いに立った道徳の時間につける力の決めだし

高山小学校では、文科省より平成17年度から18年度「いのちを大切にできる心をはぐくむ教育」の指定を受けた。研究を進めるにあたって保護者や地域とのつながりを大事にした取り組みをしたいと考え、保護者・村民向けにアンケートを実施した。そこから、道徳内容3-（2）「生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にする」ことをつける力とし、道徳項目の段階をかんがみ、以下の4点を指導内容項目と考えた。

身近な動物など、いのちあるものすべてに優しく接していこうとする心情を育てる。
どんな生き物にもいのちがあり、自分達のいのちと同じくらい大切にしなければならぬことに気づき、生き物のいのちを大切にしようとする心情を育てる。
自分のいのちが多くの人々の願いの中で生まれ、支えられ、大事にされてきたことを知り、自分のいのちを大切にしようとする心情を育てる。
自分がたくさんの人々に支えられ生きていることを感じ、生きていることに感謝するとともに、いのちを大切にしようとする心情を育てる。

体験を生かし道徳の時間を大切にした「いのちに関わる単元のカリキュラム」づくり

いのちに関わる単元において、理科「ホウセンカ・オクラを育てよう」、「モンシロチョウを育てよう」、総合的な学習「そばを育てよう」、性教育・保健・特別活動

「植物も動物もみんな生きている」「いのちの始まり」の関わりにおいて、道徳の授業を仕組み、生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にする心情を培おうと試みた。実物の動植物を目にした子どもたちは、その成長変化の様子を共通体験として生き生きと語り合い共感できる土台を持った。

そうした中、地域のチャオルの森で乳幼児検診の様子を見学した子どもたちは、自分のいのちに目を向けていき、他人事でない自分の喜びや思いに迫っていった。

切実感・子どものニーズにあった授業展開とその実際

つけたい価値があり子どもたちの心に響く資料をと検討してきたが、なかなか見つからず、委員会で討議し自作資料を試みた。また、その資料との出会わせ方は再現構成法的な教師の語りによって、安心した和やかな中で資料の世界に浸りながら、登場人物の気持ちにより添って考えさせていく手法を取り入れた。

また、さらに自分の問題へと焦点化するため、あらかじめお家の方に我が子に宛てた手紙を用意して頂き、資料を扱ったあとその手紙を読むという学習活動を展開した。

4 この事例からあきらかになったこと

つけたい力の決めだしは、今まで子どもたちの実態をみとり、教師サイドからのみ行っていたが、常に子どもたちを抱え、強い願いのもと具体的に関わってくださっている保護者・村民の願いを視野に入れられたのは、その後の支えも考えると子どもたちのためにさらに強い連携で前進していけるものと感じた。

地域の保健センター「チャオルの森」での体験が、本時の資料と結びつき、またその資料が、一人ひとりの自分の生育体験と重なり、最後究極の切実感に迫るお家の方からの手紙によって他ならぬ「自分」を見つめ、小学校3年生なりに「自分のいのち」を考えさせることにつながった。

信頼できる担任の先生からの温かな読み聞かせによって、その資料の世界に浸り登場人物に寄り添って出された発言から、自分と重ね合わせて考えられていたことが見とれた。特に1時間の中で子どもたちの変容が見られたのは、やはりお家からの手紙だった。自分にダイレクトに迫る感動資料であり、誰にでも通用しない一人の自分の存在が明らかにされたがために「いのちを大切にしたい」「恩返ししたい」の言葉の奥にあるいのちへの感謝の気持ちが表れ、指導内容項目に迫れた。

ただ、お家からの手紙には複雑な環境で生育する子どもたちもいることに十分配慮して準備し用意されたということを書き留めておきたい。

4 来年度への課題

「体験」を生かす道徳の授業の重要性はさらに強く確認されてきたと感じる。

(1) 昨年からの課題である子どもサイドからの授業評価「道徳授業振り返りカード」

を使った授業改善の方向を探ることは今年度できなかったのも、課題に残したい。

また、児童の内面の質的变化のみとりは、授業における児童の変容の姿やその後の児童の様子が評価となって、授業改善につながっていく。合わせて考えたい。

(2) その他研究内容については、今年度の成果を受けてさらに

自作資料のあり方、成長段階に合わせた段階でのカリキュラムづくり、1時間の授業での発問研究を進めていきたい。